

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫防除情報第8号

トマトキバガの発生状況と防除対策について、下記のとおりまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

トマトキバガフェロモントラップにおいて県内全域で誘殺数が増加しています。施設内への侵入に注意してください。

1 作物名 トマト、ミニトマト

2 病害虫名 トマトキバガ

3 発生状況（経過）

(1) 9月下旬から10月上旬にかけて、当センターが県内5地点に設置しているトラップにおいて、誘殺数の急増が認められた（図1）。また、各農業改良普及センターが県内各地に設置しているトラップにおいても、同時期に複数頭の誘殺を確認した。県内全域で同時期に複数頭の誘殺が確認されたのは、今年度初めてであり、過去2カ年と比較して、誘殺数も多い。

(2) 当センター過去2カ年の調査結果では、10月以降に誘殺数が増加する傾向がみられ、今後さらに誘殺数が増加する可能性がある（図1）。

(3) 現在、県内においてはほ場での発生および被害等の報告はない。

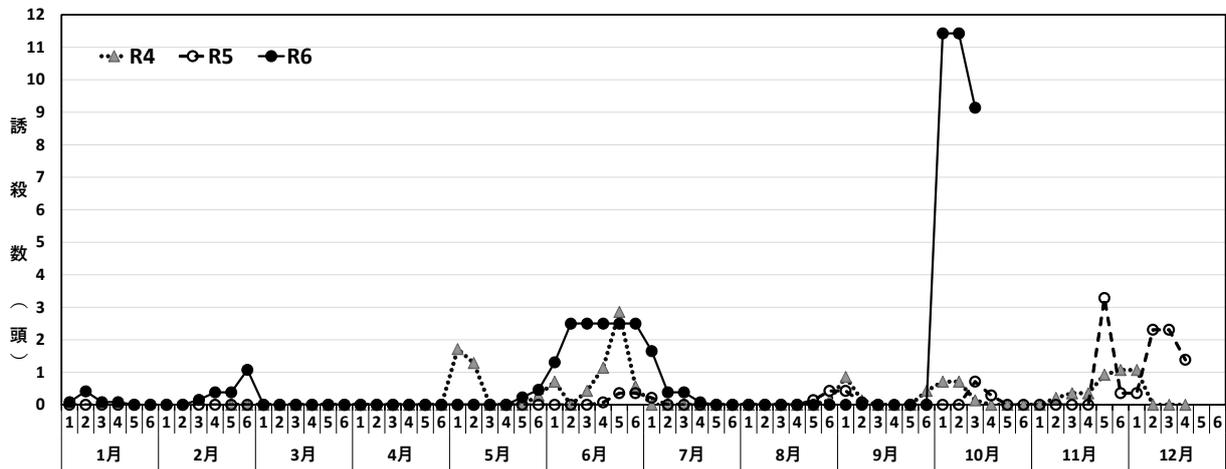


図1 県内におけるトマトキバガの発生消長（5地点の合計誘殺数の推移）

4 本虫の特徴

(1) 成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm程度である（写真1）。

幼虫は終齢で約8mm程度で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する（写真2）。

(2) トマトにおいて、葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成され、食害部分は表面だけが残って薄皮状の白～褐変した外観となる（写真3）。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じ、食害部分が腐敗し、果実品質が著しく低下する（写真4）。

(3) トマト、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。



写真1 成虫



写真2 幼虫



写真3 葉の被害



写真4 果実の被害

5 防除上の注意

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。併せて、別紙表を参考にトマトキバガに登録のある薬剤の散布を行う。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが異なる薬剤でローテーション散布を行う。また、総使用回数やミツバチへの影響を考慮して薬剤を選定する。
- (2) 除去した被害葉や被害果を野外に放置すると、それが発生源となり、周囲に拡散する恐れがあるため、薬剤散布後に、ビニール袋などにいれて、一定期間密閉し、寄生した成幼虫が死滅したことを確認したのちに適切に処分する。
- (3) 発生が疑われる場合、管轄の農業改良普及センターやJ A、病害虫防除・肥料検査センターに速やかに連絡する。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課

(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html



(別紙)

表 トマト、ミニトマトにおけるトマトキバガに対する登録農薬(令和6年10月22日時点)

IRAC コード	農薬名 (商品名)	登録の有無		農薬の種類	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	使用回数	
		トマト	ミニトマト						
5	ダブルシューターSE	○	○	脂肪酸グリセリド・ スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内	
	ディアナSC	○	○	スピネトラム 水和剤	収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	* 合計2回以内	
	ラディアントSC	○	○		収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布		
6	アフーム乳剤	○	○	エマメクチン安息 香酸塩乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	5回以内	
	アグリメック	○	×	アバメクチン 乳剤	収穫前日まで	500～ 1000倍	散布	3回以内	
	アニキ乳剤	○	○	レビメクチン 乳剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内	
11A	エスマルクDF	○	○	B T 水和剤	発生初期 但し、	1000倍	散布	—	
	チューンアップ顆粒水和剤	○	○		収穫前日まで	2000倍	散布	—	
13	コテツフロアブル	○	○	クロルフェナビル 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	
22A	トルネードエースDF	○	×	インドキサカルブ 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	* 合計2回以内	
	ファイントリムDF	○	×		収穫前日まで	2000倍	散布		
22B	アクセルフロアブル	○	○	メタフルミゾン 水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内	
28	ベネビアOD	○	○	シアントラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	* 合計4回以内 (定植時までの処理及 び定植直後の株元灌 注は合計1回以内、定 植後の散布は3回以内)	
	ベリマークSC	○	○		育苗期後半～ 定植当日	400株当 り25ml	灌注		
	プリロッソ粒剤	○	○	シアントラニプロール 粒剤	育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元散布		
	プリロッソ粒剤オメガ	○	○		育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元散布		
	フェニックス顆粒水和剤	○	○	フルベンジアミド 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布		2回以内
	ヨールフロアブル	○	○	テトラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2500倍	散布		3回以内
30	グレーシア乳剤	○	○	フルキサメタミド 乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	
UN	プレオフロアブル	○	○	ピリダリル 水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内	